

令和５年度 長岡崇徳大学 看護学部看護学科 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

※旧課程（令和元年度～令和3年度入学生に適用）

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
リーダーシップ論	1103030	中村 悦子		1	30	4	講義	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 リーダーシップとは、対人関係に現れる影響関係をいう。グループが目標を達成する過程で、互いにどのような影響を受けるのか、リーダーシップとは何か、ラボラトリー方式の体験学習と集団決定法を組み合わせる学ぶ。グループの中で、自己の取る態度や行動の傾向を知り、自己のありようを検討する。体験を通して自己理解、他者理解を深め、互いの関係性の中から、リーダーシップの役割や責任について理解する。また、保健医療チームの一員として、看護師のリーダーシップのあり方について考える。
病理病態学	2209070	高塚 尚和		1	15	4	講義	【医師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 臓器組織の差を超えて共通にみられる基本的な病変の原因、成り立ち、経過、転帰などについて再度学習する。具体的には、体液異常、血行障害、炎症、変性・壊死・萎縮・老化、腫瘍・過形成、先天異常、代謝異常などである。また、患者の示す様々な訴えや診察所見（ショックなど）から原因を探る病態症候論も併せて学習する。
看護倫理	2311060	斎藤 まさ子	1		15	3	講義	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 看護倫理の歴史的変遷から倫理的課題と概念を理解し、倫理の原則、倫理規定から看護職者に求められる倫理観について学習する。また、医療・看護の場で直面する倫理的問題やジレンマについて理解を深め、その問題解決のために活用できる法的仕組みや意思決定理論を学習する。また、事例を用いて倫理的な問題・葛藤についてグループワークで検討し、その患者にとって最も適切であると判断・行動できるための理論的根拠を考察し、看護職者として責務が果たせる基礎的能力を身につける。
老年看護援助論Ⅱ	2312100	角山 裕美子 青柳 直樹 多田 健一 本庄 幸代 袖山 悦子	1		30	3	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 高齢者の健康問題発生のプロセスとその変化を理解するためのヘルスケア・アセスメント技法を習得する。事例を用いて、加齢に伴う諸機能の低下、様々な疾患や薬剤による影響、環境から起こる変化が日常生活に及ぼす影響を考え、老年者の看護に必要な移動、排泄、食事援助、介護予防や老化防止につながる健康教育、コミュニケーション技法について体験型の演習で学ぶ。
小児看護援助論Ⅱ	2312150	沼野 博子 伊藤 文子	1		30	3	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 基礎看護学で学んだ技術を基盤として、乳幼児を想定した子どものフィジカルアセスメントや小児看護技術項目について小グループに分かれて演習室にて技術演習を行う。特に、検査・処置を受ける子どもに対する説明と不安軽減、個別性を考えながら適確な技術を提供するためのポイントについてDVDやデモンストレーションを参考に実践的に学ぶ。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
母性看護援助論Ⅱ	2312190	高島 葉子 風間 みえ 佐藤 初美	1		30	3	演習	【看護師・助産師実務経験を持つ教員が教授する科目】 妊娠・出産・育児期の健康問題や家族支援にかかわる看護援助の方法論をもとに、母子の事例を用いた看護過程の学習と看護技術を学ぶ。褥婦の全身・生殖器の復古と回復を助けるための看護援助、母親・家族の役割適応を支援する看護援助を学ぶとともに、新生児の出生直後から胎外生活への移行や退院までのウェルビーイングを助長する看護援助、退院後の生活指導に関する看護援助について学ぶ。
精神看護援助論Ⅱ	2312230	田邊 要補 板山 稔 藤田 勇	1		30	3	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 精神に健康問題を持つ人とその家族についての事例を通して、入院から社会生活までの看護を理解するとともに、精神に特徴的な疾患や症状をもつ人に対しての具体的な看護援助方法を学習する。さらに地域で暮らす精神に障がいをもつ人の看護についても理解する。
成人看護学実習Ⅰ	2312050	広井 貴子 近藤 ふさえ 目黒 優子	2		90	3	実習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 急性期・周手術期にある成人を受け持ち、患者とその家族の健康上の問題を理解し、問題解決に向けた看護援助を主体的に考え、集中管理・治療・ケアなどの生命の危機状態にある患者や家族ケアを学ぶ。看護過程を展開していく過程で、患者とその家族の個別性を捉え、変化に応じた看護援助のあり方を考え、看護を創造し発展できる能力を養う。さらに、退院にむけて保健医療福祉チームにおける多職種連携において看護の役割を学ぶとともに自己の看護観を発展させる。
成人看護学実習Ⅱ	2312060	目黒 優子 近藤 ふさえ 広井 貴子	3		135	3	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 慢性期にある成人を受け持ち、患者の特徴と看護上の問題を理解し、慢性期における機能障害が生活に及ぼす影響、機能障害に応じた援助の方法、症状や検査・治療に応じた看護、多職種との連携による継続看護の方法を学ぶ。また、慢性期から死の転帰をとる成人期の患者とその家族の気持ちに寄り添い、患者や家族のＱＯＬ向上のための看護援助の実際を学ぶ。また、緩和ケアにおけるチーム医療を考えるとともに、在宅緩和ケアの意義や課題について考察する。
成人看護学実習Ⅲ	2312070	広井 貴子 近藤 ふさえ 目黒 優子	1		45	4	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 成人期の健康についての地域特性や社会資源に関する資料・健康指標、健康に対する考え方を外来看護師への相談内容、外来通院の患者、健康増進活動をしている地域住民との交流を通して知り、個人及び地域の健康課題を見出す。次に、地域住民の生活習慣病に対する認識を高め、健康の維持・増進にむけた地域住民向けのイベントの企画・運営をしてヘルスプロモーション活動につなげる。また、成人期の発達課題である子育て、仕事や老親の扶養など健康との関連について考察する。
老年看護学実習Ⅰ	2312110	青柳 直樹 角山 裕美子 多田 健一 本庄 幸代	2		90	3	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 介護老人保健施設に入所している高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。看護過程の展開にあたり援助的関係を築き、高齢者の発達課題、家族の状況、疾病や老化が日常生活に及ぼす影響をアセスメントし、健康の維持・増進を考え、高齢者のＱＯＬ向上をめざした看護を実践する。また、高齢者の生活を支える看護職や他職種との連携の実際を知り、看護師の役割を考察する。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
老年看護学実習Ⅱ	2312120	角山 裕美子 青柳 直樹 多田 健一 本庄 幸代	2		90	3	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 地域で生活する高齢者の健康保持・増進・疾病予防・介護予防や日々の暮らしをさまざまな側面からサポートする仕組み、保健医療福祉・介護の連携・協働、地域住民の生活を守る包括的・継続的支援について学ぶ。地域密着型サービスのケアを通し、高齢者がくらし慣れた地域で生活していくためのケアのあり方を考察する。地域包括支援センターでは、高齢者のくらしを地域でサポートするための拠点として、「介護予防ケアマネジメント」「包括的・継続的ケアマネジメント」「総合相談」「権利擁護」の実際を通して、個人・地域特性に応じた健康環境づくりや健康保持増進に関連する地域の組織的な取り組みや社会資源開発を学び、高齢者の暮らしを地域で包括的・継続的に支援することの意義を考察する。
小児看護学実習	2312160	沼野 博子 伊藤 文子	2		90	3	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 子どもの健康問題、生活上および発達上の問題に注目し、子どもの特性やアプローチの基本、看護専門職として必要な知識・技術・態度を学ぶ。また、子どもと家族の健康増進などの看護を体験する。一般小児病棟や障がい児施設において一人または複数の小児を受け持ち、その児の健康問題、生活上の問題や発達上の問題にフォーカスし、小児の特性やアプローチの基本、看護専門職として必要な知識・技術・態度を学ぶ。また、保育園での小児実習、小児の健診の場面も活用し、小児と家族の健康増進などの看護を体験する。
母性看護学実習	2312200	佐藤 初美 高島 葉子 風間 みえ	2		90	3	実習	【看護師・助産師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 周産期にある母性看護の対象者（妊産褥婦・新生児、胎児を含む）とその家族に対して、既習の知識・技術・対度を統合し、ウェルネス看護の視点で個別性のある看護過程を展開する。 実習は病院やクリニックの産婦人科病棟、外来（助産師外来、母乳外来）などで学ぶ。また、女性と家族が次世代を産み育てるために、家庭や地域における継続的な母子支援も体験する。具体的には、産後ケア施設や子育て支援施設での実習、地域で活動する助産師の沐浴や新生児訪問への同行、母親学級を見学するなど、多様な場で学ぶ。
精神看護学実習	2312240	田邊 要補 斎藤 まさ子 板山 稔 藤田 勇	2		90	3	実習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 精神看護学実習では、患者－看護師関係を築きながら、精神に障がいをもつ個人を生物的・心理的・社会的に捉え、強みを活かした健康回復への支援を実施する。関係構築の過程を通して対象者の体験を把握する能力と自己洞察の能力を養う。さらに、精神保健福祉における多職種チームの中での看護師の役割について理解し、看護者として対象者が地域で生活を営む上での必要な援助について理解する。病棟実習、社会復帰施設での実習を行う。
在宅看護援助論Ⅱ	2313040	山崎 節子 駒形 三和子 古澤 弘美	1		30	3	演習	【看護師・保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 対象別の在宅看護の実際に基づき、在宅看護に必要な知識・技術について講義・演習を通して学ぶ。在宅看護で必要とされる基本的生活援助技術について修得する。そして、在宅看護における紙上事例を展開し、在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法を学習する。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
地域診断論	2313100	駒形 三和子 平澤 則子 渡邊 路子		1	15	3	講義	【看護師・保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 ヘルスプロモーションの理念に基づき、健康で暮らしやすい地域づくりをめざした地域看護活動の目的と方法について学習する。地域を看護の対象として認識し、社会との関連で健康課題を理解し、地域で生活する人々の健康と生活のニーズを、多角的にアセスメントする具体的方法を学ぶ。また、人々のニーズをいかした地域看護活動計画について考える。
災害看護活動論Ⅰ	2313150	春川 一樹	1		30	3	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 災害看護論を基盤に実際に県内で起きた雪害、水害、中越地震、中越沖地震の被災地、および県外の被災地に出向き、被災地の復興の流れや、防災・減災対策などを実際に学ぶ。同時に、フィールドワークを通して、被災者の理解を深め、看護職および地域住民双方の視点から防災、被災に対する自己の考えを深める。事例によるロールプレイングを行い災害で親しい人を失った遺族への言葉かけ、コミュニケーションスキル（傾聴）を学ぶ
災害看護活動論Ⅱ	2313160	古澤 弘美		1	30	4	演習	【看護師・保健師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 静穏期における災害看護について、災害看護活動論Ⅰで行ったフィールドワークを基に看護職者として災害時の看護方策を考える。一般市民に対し、平時における減災に向けた防災指導について企画することができる。被災地でのトリアージ、各災害場面におけるチーム医療・看護者としての役割について理解を深める。
在宅看護学実習	2313050	山崎 節子 駒形 三和子 古澤 弘美	2		90	3	実習	【看護師・保健師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 訪問看護ステーションでは、対象者を受け持ち、在宅訪問に同行し、対象の環境を理解して訪問看護過程を展開する。訪問看護過程の展開にあたっては人と家族がどのように暮らしたいかを把握し、その人らしさや家族の思いを活かす。また、地域の中で生活するために現存の社会資源について調べ、対象者や在宅療養のために必要な課題が表現できる。病院から地域への看護の継続と多職種との連携について理解を深め、地域で生活する様々な健康レベルにある人びとへの看護活動を理解し、看護実践能力の基盤を修得する。
公衆衛生看護活動展開論 実習	2313120	平澤 則子 渡邊 路子 駒形 三和子		3	135	4	実習	【看護師・保健師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 保健所および市町村の組織について担当者から説明を受け、保健所・市町村における保健事業・地域看護活動に参加し、公衆衛生看護の目的・目標について理解を深め、地域住民の健康を支援する保健師の役割を学ぶ。また、保健医療福祉チームにおける保健師の役割と連携・協働の重要性を学び、行政看護領域における看護管理の実際と行政保健師の役割を学ぶ。また、産業保健における看護活動の実際を理解し、健全な職業生活を支える労働衛生管理のあり方と看護職の役割について学ぶ。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
個人・家族・集団・組織の支援実習	2313130	平澤 則子 渡邊 路子 駒形 三和子		2	90	4	実習	【看護師・保健師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 大学周辺の地区をフィールドとして実習を行う。担当した地区の地域診断を行い、明らかになった健康課題解決に向けて健康相談会や健康教育を実施する。 1週目は、地区踏査、高齢者世帯等への家庭訪問、地域組織の代表者（町内会長、民生委員、健康推進員、食生活改善推進員等）や関係機関（コミュニティセンター、地域包括支援センター等）への聞き取りを実施して、地域で生活する人々の健康課題を健康、生活、社会的条件との関連から検討し、健康課題解決に向けて公衆衛生看護活動計画を立案する。 2週目は、1週目の実習内容をふまえ、地区で生活する住民とともに地区の健康課題や解決策を考え、健康課題解決に向けて健康相談会や健康教育を実施する。
看護管理論	2314010	中村 悦子	1		15	4	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 看護を提供するために必要な組織づくりや看護管理の考え方について学ぶ。「看護管理」のもつ印象は、看護管理者のための職務と捉えられやすい。今日、管理の概念や知識は看護職が専門職業人として当然にもつべき必要な概念として位置づけられる。看護管理の目的・機能について理解し、質の高い看護を提供するためのシステムの基礎を学ぶ。組織、医療制度と法律、人的資源管理、看護の提供システム、看護の質保証、継続教育などについて学習し、組織の一員として、また保健医療チームの一員としての役割と責任について理解する。
国際看護論	2314020	中村 勝		1	15	4	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 グローバル化社会にともなう多様な文化や医療・看護に対する視野を広げ、国際保健医療（グローバルヘルス）や看護の在り方について学ぶ。具体的には、世界の宗教と文化や保健医療の実際について理解し、人々の生活に関連する異文化看護についての基本的な知識を習得する。さらに日本に求められる国際支援政策、国際協力活動における看護師の役割、そして、医療や看護における諸外国との協力関係について具体例をとおして学ぶ。 異文化看護について、国際保健医療の視点を交えて教授する。また、国内の在留外国人に対応するコミュニケーション方法や看護について具体的に説明する。我が国の国際支援政策、国際協力活動における看護師の役割や諸外国との協力関係について、国連の政策をもとに教授する。
看護情報論	2314030	田邊 要補		1	15	4	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 看護におけるさまざまな「データ・情報・知識」について、蓄積・検索・分析・活用という観点から学習し、看護情報学の基礎を身につける。個人情報保護に関する法律やガイドラインに基づく適切な情報の取り扱いなど、情報倫理や情報管理の意義について学ぶ。学術情報の検索と活用、医療情報システム、健康教育や患者教育における情報の活用方法、健康情報とメディア等、幅広く理解を深める。また、看護・医療における情報活用の意義及び看護活動における記録や報告等の情報の伝達の仕方、個人情報の取扱い、病院の情報システムにおける情報管理、地域保健医療ネットワークについて理解する。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
医療安全論	2314040	中村 悦子		1	15	4	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 医療安全における基礎的知識を理解するとともに、医療の現場の取り組みの実際と医療安全対策における看護職者の責任と役割について学ぶ。リスク発生の原因とヒューマンエラーの関連について理解し、現場で発生するインシデント、アクシデントのリスク管理について学ぶ。授業は参加型とし、医療事故の実態調査と分析、与薬や輸液、転倒転落のシミュレーション・リフレクションを行い、グループによる事例分析などの演習を組み入れる。
統合実践演習	2314050	目黒 優子 沼野 博子 藤田 勇 佐藤 初美 多田 健一	1		30	4	演習	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 各専門分野で学習した知識と技術について、基礎的な知識と技術の統合を図るとともに、自己の学習課題を明確にして統合実践実習に臨むためのレディネスも養う。統合実践演習の課題としては、個々の知識・技術の統合、病院内および地域医療を視野に入れたチーム医療や多職種との協働における看護師の役割、チーム医療における看護職としてのメンバーシップ及びリーダーシップのあり方などが挙げられる。演習方法として、課題にそった対象者別の事例検討、対象疾患・障がい別の退院支援と地域連携の在り方の検討などが挙げられる。
統合実践実習	2314060	看護学部専任教員	2		90	4	実習	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 これまでに学んだ知識・技術・態度を統合し、実習の目的・目標を達成するために学生が、教員指導のもとで実習計画を立案し、保健医療福祉チームの一員として医療施設から地域への切れ目のない支援では、地域包括ケア病棟・地域連携室での実習において多職種連携に参加し、看護の継続性の実際から、看護職としてのメンバーシップならびにリーダーシップを学ぶ。また、多面的な看護体験を通して看護管理者の役割と機能について学ぶ。複数患者を受け持ち、優先度を判断した看護実践を行う基礎的能力を習得するとともに、自らの看護実践能力の開発にむけて学び続ける姿勢や課題探究能力の基盤を養う。
看護実践力演習	2314090	広井 貴子 大崎 美奈子		1	30	4	演習	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 看護実践力を向上させるために、自己の課題に沿って看護技術の練習を行う。 第1回目に看護基礎技術の到達度チェックを行い、自己の課題を明らかにする。また、卒業時看護技術到達項目の中で共通する課題を明らかにし、到達度が低い項目に着目した演習計画を立てて実践的にグループ演習を行う。同時に、受け持ち患者を想定した状況設定を行い、看護の手順や対象者の尊厳を考えた実施計画と実践を練習する。対象者への説明や指導の場面では、ロールプレイなどを取り入れてより現実的な演習とする。最終的には、グループ間で相互評価を行い、学生自身の気づきと相互評価力を育成する。
看護学研究法	2314070	板山 稔 近藤 ふさえ	2		30	3	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 看護学における研究（看護研究）に必要な基礎的な知識を習得する。看護研究の意義や目的を理解し、研究デザインに応じたデータ収集方法や分析手法、倫理的配慮等について学ぶ。これらの知識をもとに文献検索、文献レビュー、文献クリティークを行い、研究計画書の作成を体験する。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
リハビリテーション看護	2315030	近藤 ふさえ		1	15	4	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 生活機能に障がいをもった人とその家族が生活の再構築をはかり、その人にとっての最適な生活の営みを目指したり リハビリテーション看護の理論と方法論を学修する。 主に運動機能障害、高次脳機能障害、嚥下機能障害、排泄機能障害を事例をとおして、リハビリテーション看護の役割と機能および倫理的諸問題を考察する。
家族看護論	2315010	斎藤 まさ子		2	30	3	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 家族をシステムとしてとらえ看護する家族看護の理論を学ぶ。具体的には家族の発達周期、システムとしての家族の理解、アセスメントモデルなどである。また看護過程を学び、臨床から在宅まで、それぞれの場で暮らす家族を地域の中で看護する方法について事例を通して学ぶ。
へき地看護論	2315020	平澤 則子		1	15	4	講義	【看護師・保健師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 へき地の意味と地域特性、その生活と健康の関連を考え、へき地で求められる看護の役割を考える。そのうえで、新潟県について学習を進める。新潟県は山間部や離島があり、医療偏在という課題を抱えている。交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地や離島など、医療の確保が困難である地域における看護活動について、地域の基幹病院の果たす役割も含めて理解する。また、調べ学習をグループで行い、現状から課題を抽出し、看護に求められる役割について考察するとともに、自己の課題についても考察する。
緩和・ターミナルケア看護論	2315040	近藤 ふさえ 広井 貴子		2	30	4	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 成人看護援助論（慢性期）で学んだ緩和ケアの基本を発展させる内容とする。具体的な事例をもとに、どのような看護的介入が必要であるかについて学習する。
認知症ケア論	2315050	青柳 直樹 角山 裕美子 多田 健一 本庄 幸代 袖山 悦子		2	30	4	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 認知症についての基礎的知識を習得し、認知症とともに生きる人の体験を理解し、認知症の人のみでなく家族を含めた看護の役割を習得するため、「認知症を知る」と「認知症を理解する」ことを通して、老年期における認知症の発現過程と認知症者との相互作用の実際について学習する。また、認知症の人のＱＯＬの向上にむけ、認知症の人を中心にした日常生活・社会生活に適應するための生活環境の整え方やリスクマネジメントについて学習する。
合 計			31	21	1680			